第６２回　フォーラム２１　例会　報告

■　日時：平成２５年１０月９日（水）１６：００～

■　会場：鹿島建設㈱中部支店　１２階会議室

■　スケジュール

①　演題：「博士号取得までの道のり」

講師：千代　和夫　氏（㈱センダイ技術士事務所）

小林　　浩　氏（㈱トーエネック）

②　ライトパーティー

■　内容

小林　浩　氏　　博士（工学・名古屋工業大学）　2009 年 3 月取得

・　博士号取得の経歴ときっかけは、社内での研究開発と対外活動が一致し取得環境が整ったことが大きかった。平成７年から現在まで電気設備学会中部支部で５件の委員会活動に参画している。また、電気設備学会本部の活動で２件、電気協同研究で２件、日本電気協会で２件、電気学会で１件の委員会活動がある。さらに、平成１９年から省エネルギーセンター専門員としても活動している。

・　博士論文の内容は、「進相コンデンサを活用した配電システムの電力品質向上に関する研究」である。現在はスマートグリッドの話題が多いが、この考え方が発表されるまでに、コンデンサの制御で配電系統の協調的電圧不平衡抑制手法等が提案されている。

・　研究者にとっての博士号は、「足の裏の飯粒」にたとえられる。こころは、取らないと気持ちが悪いが、取っても食えない。心がけとしては、①常に実力の少し上を目指す、②一芸に秀でる、③どんな仕事も役立つ、をモットーに今後も努力したい。

小林講師

聴講者風景

千代　和夫　氏　　博士（工学・富山大学）　2012 年 3 月取得

- 企業内の技術者として、技術士、照明プロフェショナルを所持しているが、定年を目の前にして博士号の取得に挑戦した。少し長くかかったが、社会環境の変化（東北大震災後の省エネ対策等）により持論が認められることとなった。
- 博士論文の内容は、「暗順応過程における物体色に対する色覚特性の推移に関する研究」である。暗順応過程において錐体から桿体への交代により色のみえ方や明るさ感に大きな変化が起きる。特に薄暮から夜間へ変わる過程では、昼間の見え方とは異なった見え方をしている。暗順応へと移行する過程で、ライトアップされた対象物の見え方のプロセスが明らかとなった。この基礎的研究により看板照明の最適点灯タイミング、さらには看板面照度を最適に変化させていくための省エネ指向の照明手法へ発展させることができることを明らかにした。
- 取得には少し苦労したが、関係者からは「なでしこジャパンの澤のつま先キック」とも「はやぶさの奇跡の帰還」とも言われた。しかし、博士号の取得は「ここからがスタート」と考えている。多くの方が、年齢に関係なくチャレンジいただきたい。

千代講師

講演後の懇親会

報告者：保木本正史（㈱きんでん）